

千曲川・橋梁の今昔 その1

かむり 冠 着 橋



国道 403 号千曲川展望公園からの眺望

千曲建設事務所の管内ほぼ中央を南から北へ流れる千曲川。古来流域の人々の暮らしを支え、産業文化を育んできた豊かで緩やかな流れは、地域の象徴的な景観となっています。

千曲川を隔てて、人々や物資の往来を支えてきたのが橋梁です。甲武信ヶ岳に源を發し流域面積の広大な千曲川の洪水に幾度となく流失させられ、再建、改良を重ねて今日に至っています。地域を橋梁の歴史を通して見ていただくため、当所が管理する7橋梁をシリーズで紹介します。第1回は冠着橋です。

1 橋梁データ

路線名 (場所)		一般県道 内川姨捨停車場線 (右岸 千曲市千本柳 左岸 千曲市須坂)
今	完成年月	平成 26 年 (2014 年) 11 月 29 日
	橋長	475.3m
昔	最初の橋の完成年	昭和 33 年 (1958 年)
	橋長	74m
	増設年と 総延長	S43 年 106.5m、S47 年 253.3m、S57 年 309.4m、 S58 年 354.5m、H3 年 471.8m永久橋化
備考		旧橋は平成 27 年から撤去開始

2 冠着橋の歴史

(1) 吊り橋からトラス橋へ



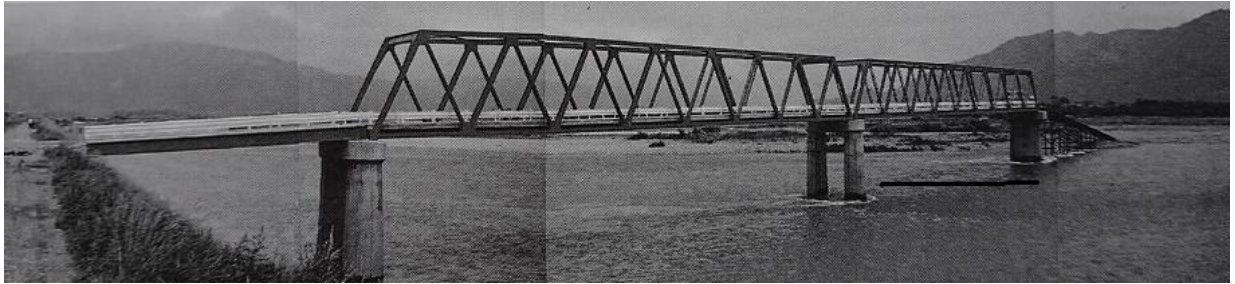
かむりき橋竣工渡り初め (昭和 33 年 6 月)
豊城直祥氏蔵 (戸倉町誌第三巻歴史編下)

更級地区から戸倉駅、商店街への最短距離であるこの場所に橋が架かる前は、「千本柳の渡し」と呼ばれる渡し船が運行していました。初めて橋が架かったのは昭和 33 年 (1958 年)。戸倉町 (現千曲市) により、木製の吊り橋が左岸側 (川の上流から下流を見て左側) に架設されました。延長は現在の橋の 6 分の 1 に相当する 74m で、左岸側の流水部分だけに橋を架け、河床の道路と斜路 (取付道路) で結んでいました。板敷で自動車が通れず、河床部分は増水すると水没し通行できなくなることは頻繁で、昭和 40 年には通行止めとなり、41 年の台風で一部が流失してしまいました。



昭和 41 年台風 26 号被災後の旧木橋 (吊り橋) (長野県更埴建設事務所記念誌 平成 7 年 3 月)

復旧工事では吊り橋を撤去して橋脚の新設を行い、昭和 43 年（1968 年）に赤色の鋼製トラス橋*が架けられました。この延長 106.5m、幅員 3 m の部分は、平成 26 年（2014 年）に現在の橋ができるまでの 46 年間活躍しました。 ※トラス橋 桁部分に細長い部材を三角形につないだ構造を繰り返して桁を構成する工法



昭和 43 年鋼製トラス橋に復旧された冠着橋（長野県更埴建設事務所記念誌 平成 7 年 3 月）

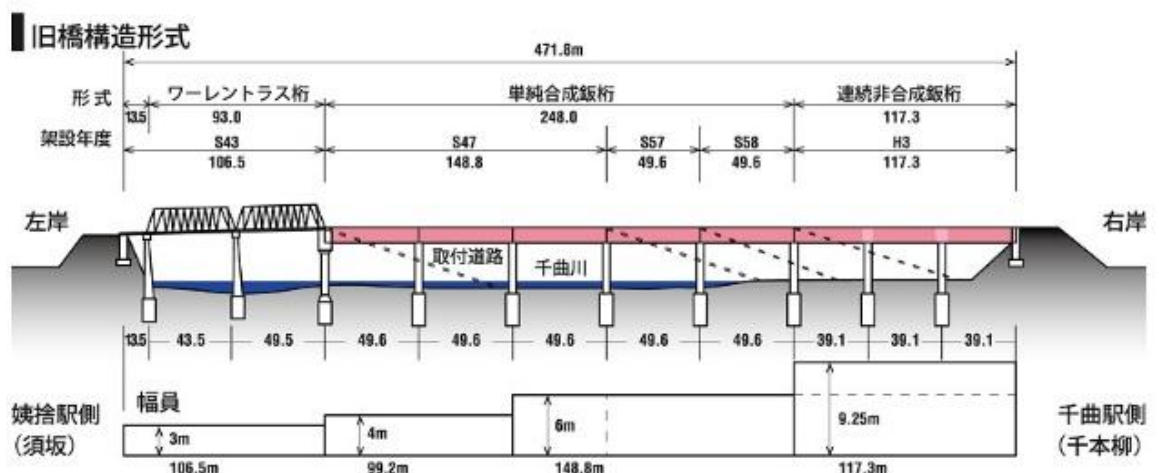
(2) 千曲川全幅に架かる旧橋の完成

昭和 49 年（1974 年）、内川須坂線が町道から県道に移管。県による整備が始まりました。昭和 50 年代に入っても台風災害で斜路の流失被害を受け、工事のたびに桁橋が延長されていきます。（下図 旧橋構造形式参照）

平成 3 年（1991 年）、河川全幅に架かる橋が完成。昭和 33 年の吊り橋から増改築を 5 回、24 年の歳月を経て、初めて兩岸がつながりました。部分的な架け替えにより、幅員が 3 m ~9.75m の間で 4 段階に広がる特殊な橋梁であり、「筍（たけのこ）橋」などと呼ばれました。幅員の狭い区間は自動車のすれ違いができず、信号によって交互通行を行っていました。



国道 18 号と麻績を結ぶこの橋が完成したことにより、東筑摩郡と更埴地域は峠越えではあるものの、より行き来しやすくなりました。この橋を渡って善光寺平を流れ下る千曲川の眺望に心を癒し、「田毎の月」の名勝を訪れる人も多くなりました。



冠着橋（長野県千曲建設事務所リーフレット 平成 26 年 11 月）

3 冠着橋の今

現在の橋は平成 19 年(2007 年)に工事着手、26 年(2014 年) 11 月に供用を開始しました。延長は 844.4m(橋梁区間 475.3m)、全体幅員 10.75m、車道幅員 6.0m。塗装の手間がいらぬ耐候性鋼材を用いた橋桁、ケーソン基礎と呼ばれるコンクリート製の柱を 10m 以上埋設した基礎橋脚、落橋防止装置等の耐震構造など数々の技術的な特徴を有しています。

旧橋は撤去工事を平成 27 年(2015 年)から開始し、6 年間で完了する予定です。河川内の工事であり出水期の施工を避けるため、工区を区切り、橋桁、橋台、橋脚などを段階的に撤去しています。

今年(2023 年)は初めて吊り橋が架かってちょうど 60 年。1 日に 3,213 台*の車両が通過する交通の要となっています。また、左岸側は上田千曲長野自転車道線(千曲川サイクリングコース)にも接し、川沿いを走るサイクリストやランナーにも親しまれています。

※ H27 年交通量(24 時間 内川姨捨(停)線 千曲市須坂)



旧橋のさよならイベント
平成 27 年(2015 年) 11 月



旧橋撤去工事の状況 (平成 29 年 2017 年)



左岸側からの空撮、左側(下流)が旧橋。右側が新しい冠着橋
(平成 26 年 2014 年)

ホームページ こちらもご覧ください

「千曲ふれあい散歩だより」

長野県千曲市の千曲川を渡河する冠着橋旧橋の撤去工事を動画でご紹介します

<http://www.pref.nagano.lg.jp/chikuken/kamurikihashi.html>

冠着橋旧橋撤去工事の現場研修会の様子

(<http://www.pref.nagano.lg.jp/chikuken/kamu.html>)

次回は 笄橋(こうがいばし)です。

